

St. Luke's International University Repository

WHO看護開発協力センター委員会:学術活動報告 (2002年度)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 菱沼, 典子, 田代, 順子, 平林, 優子, 有森, 直子, 水野, 恵理子, 酒井, 昌子, 大迫, 哲也 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/452

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



学術活動報告(2002年度)

WHO看護開発協力センター委員会

聖路加看護大学 WHO 看護開発協力センターは1998年5月からの第3期委嘱の最終年度となり、委員会では2001年度年次報告書の作成と4年間の活動に関する情報を WHO の指定様式に従って評価報告書及び委嘱継続のためのセンター活動計画立案作業を行った。これら報告書は4月末に WPR (西太平洋地区) 事務所 (マニラ) に提出された。

世界の WHO コラボレーティングセンター会議 (第11回グローバル・ネットワーク会議・学術大会) が2月27日から3月1日にシカゴで開催された。本センターから田代・羽山両教授が出席した。本会議では、他センターと共に2001年度のセンター活動報告を行った。加えて、学術大会では厚生労働省医療技術評価総合研究事業で行った成果「Development of a Community Nursing Practice Model Using Primary Health Care Concepts in Japan」を示説で発表した。また、この会議で西太平洋地区の代表センターを YONSEI 大学 (韓国) から引き継ぐことになった。

WHO/WPRO 主催の看護・助産の対策計画コンサルテーション会議 (Nursing/Midwifery Strategic Planning Consultation) が11月25-29日に開かれ、本センターから羽山教授が会議に出席し、途上国の看護職の能力開発および看護教育必須の Tool Kits (貧困・ジェンダー等) 開発について討議した。

看護開発協力センター委員会は、今年度から3年継続研究として厚生省国際医療研究委託事業の研究助成金を受けて、開発途上国における看護技術移転教育プログラム開発に関する研究を国際医療センター、国立看護大学校と研究活動を開始した。本センターは大学院修士レベルのプログラム開発のための「国際看護専門看護師の継続看護教育ニーズ調査」を進めている。

(センター長 菱沼典子

委員 長 田代順子

委員：平林優子, 有森直子, 水野恵理子, 酒井昌子, 大迫哲也)